

< 参考資料 >

平成 28 年度 予算編成の基本的な考え方

1. 予算編成の基本方針

平成 28 年度は、「市民の幸せと希望、子どもたちの将来のために力強く挑戦する磐田」という思い・理念のもと、目指す市政の目標を「総合力ナンバーワンを目指したまちづくり」、「安定した行財政基盤の確立」、「将来を見据えた成長・発展の基盤づくり」と設定し、予算編成に取り組みました。

収支見通しは、予算編成前の段階で、市税収入は、法人市民税が税率改正の影響により減額、固定資産税が家屋の新增築の増に伴う増額、軽自動車税も税率改正の影響による増額が見込まれ、市税全体では対前年比で微増、歳出は公共施設の経年劣化等により、修繕料・工事費等が平成 27 年度並みの水準での推移が見込まれること及び扶助費の増加等により、多額の一般財源不足が生じるものと見込みました。

これらのことから、当初予算は、本市の財政状況や国の合併特例による財政支援の段階的な減額等、将来の見通しを踏まえ、あれもこれもではなく、優先順位付けを行う中で、次に示す重点目標及び優先施策に基づき編成しました。

(1) 重点目標

将来を担う子どもたちのために
市民の自立と住みよい地域をつくるために
強い経済基盤をつくるために

(2) 優先施策

子育て支援

((仮称)子ども図書館の基本構想、児童発達支援・就労支援一体型施設の整備 など)

教育振興

(ながふじ学府一体校の基本構想、磐田北幼稚園の再築、磐田北小プールの改築 など)

地域力の向上

((仮称)豊浜交流センターの建設、空き家リフォーム補助金の創設 など)

地域福祉・支え合いの推進

(24 時間対応訪問介護・看護事業所の開設支援、生活困窮者の就労準備支援 など)

防災・減災対策

(緊急輸送路沿道の建築物耐震化の支援、同報無線のデジタル化 など)

産業の育成・支援

(次世代型農水産業を推進する補助金の創設、市内企業の海外交流支援 など)

都市基盤の整備

(道路照明灯・豊田町駅南北自由通路照明設備のLED化、J R 新駅・スマートICの設置推進 など)